

Embedded DS



重要なお知らせ (2014年8月6日)

近日中にEmbedded DSのコードがバージョンアップします。これからEmbedded DSの導入を検討されている方は、新バージョンのJavaScriptテンプレートのダウンロードから取得したものを埋め込んで問題ないことをご確認ください。

関連: [upki-fed:00809] Re: 学認DS新バージョンのお知らせ

追記

本バージョンアップは重大なソフトウェアの問題により延期されました。続報をお待ちください。

Embedded DSの使い方

従来の学認のDSでは、ログインの過程で、SP→DS→IdPという画面遷移となっていたのですが、この流れでは、はじめてフェデレーションのサービスを機関IdPで認証しようとするユーザが、DSへの画面遷移で戸惑う可能性が指摘されていました。Embedded DSは、SPの中にDSの画面を埋め込むことで、エンドユーザにより直観的なユーザインターフェースを提供するものです。IdPを表示する際のカテゴリ分けにも対応しており、従来に比べて、より所属機関のIdPが選択しやすくなりました。学認では、スイスのフェデレーションSWITCHaaiの開発したEmbedded Discovery Serviceをカスタマイズして利用しています。

Embedded DSの紹介

Embedded DSの紹介スライド

2011年の学認CAMPにおける発表スライドです。p.3~8でEmbedded DSの紹介をしています。

Embedded DSの設定方法

shibboleth2.xmlの設定

変更の必要はありません。

Webアプリケーション側の設定

従来は、ログインボタンをShibboleth認証を必要とするURLにリンクしていましたが、規定のJavaScriptをログイン画面に埋め込むことで、SP内にDSの画面が表示されます。

JavaScriptテンプレートのダウンロード (2011年11月9日更新)

以下を参考に埋め込んだHTML片を修正してください。

テンプレートからの変更箇所

- var wayf_sp_entityID = "Embedded DSを利用するSPのentityID"
- var wayf_sp_handlerURL = "Embedded DSを利用するSPのハンドラURL"
例: https://sp.example.ac.jp/Shibboleth.sso
以前のテンプレートでは値が異なっている場合があるので適宜修正してください。
- var wayf_return_url = "Embedded DSを利用するSPで認証後に戻るURL"
- <noscript>内のURL: Javascriptが利用できない際のDSへの直接リンク

Advancedな設定項目はこの他にもありますので、テンプレート内のコメントを参考にカスタマイズして下さい。

既存ページに埋め込まない場合に、簡易にEmbedded DSを使用するための方法

Form SessionInitiator(discoveryTemplate.html)を使って実現する方法があります。

[GakuNinShare:設定・運用・カスタマイズ#学認外のIdPを選択できるようにする方法](#)に従って設定してください。ただし、追加IdPについての部分は読み飛ばしてください。